

紀女郎、大伴宿禰家持に贈る歌二首

一四六〇番

戯奴がため 我が手もすまに 春の野に 抜ける
茅花そ 召して肥えませ

一四六一番

昼は咲き 夜は恋ひ寝る 合飲木の花 君のみ見
めや 戯奴さへに見よ

大伴家持の贈り和ふる歌二首

一四六二番

我が君に 戯奴は恋ふらし 賜りたる 茅花を食
めど いや瘦せに瘦す

一四六三番

我妹子が 形見の合飲木は 花のみに 咲きてけ
だしく 実にならじかも

大伴家持、坂上大嬢に贈る歌一首

一四六四番

春霞 たなびく山の 隔れれば 妹に逢はずて
月そ経にける